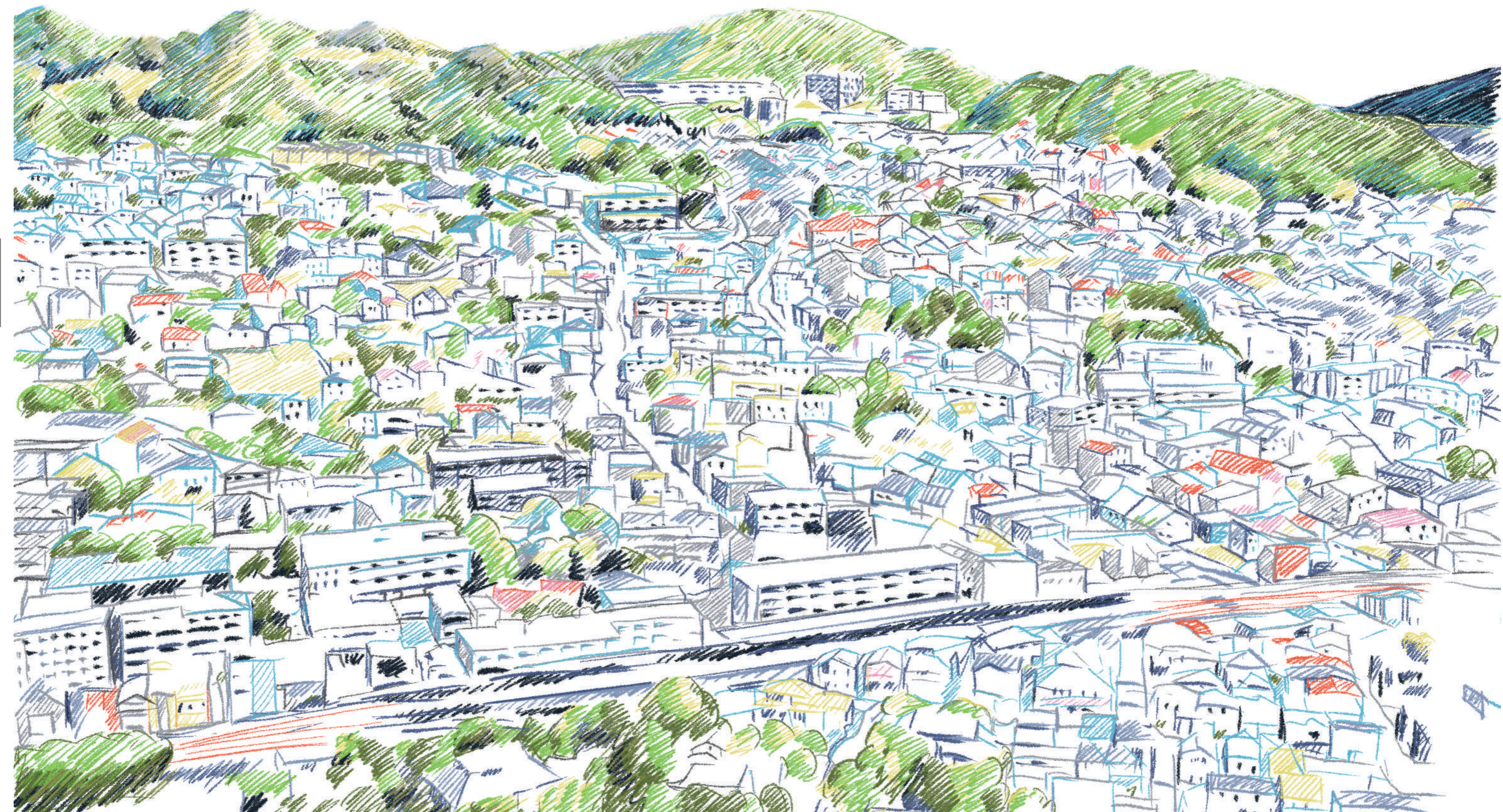


令和3年10月9日 歴史講演会記念誌

# 景観を織りなす わがまちの歴史



宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会





~ 令和3年10月9日歴史講演会記念誌 ~

## 景観を織りなすわがまちの歴史



はじめに

長尾台小学校区まちづくり協議会（愛称：コミュニティひばり）の中核となる自治会は、宝塚市だけでなく、川西市満願寺町を含めた9の自治会で構成されています。長尾台小学校区は宝塚市の東南端に位置し、この地域内にある川西市の飛び地には満願寺があり、近隣には栄根寺廃寺等由緒ある寺院があります。私たちの生活圏は宝塚市だけでなく、隣接する川西市の指呼の中に大型商業施設があり、両市にまたがっています。

この地域は、元々果樹畑と山林でしたが約100年前、阿部元太郎氏が自身の理想「私地公景」を求めて、雲雀丘地区にモダンな洋風の住宅地を開発したことを契機に、この地域での住宅需要が高まりました。河崎助太郎氏は、花屋敷地区に花屋敷土地開発株式会社を設立して住宅開発を行い、医師・別所彰善氏は、大正末期に「人間医学」の実践場所として「山林精常園」を開き、患者たち自らが道路や療養施設・療養者向け住宅などを鍛錬の一環として建設しました。また、今ではその面影もありませんが、田中数之助氏が、宝塚新温泉に対抗するように動物園や遊園地などを完備したレジャー施設「新花屋敷温泉」を満願寺の西奥に開業するとともに、来場者の輸送手段として、長い急坂に日本初のトロリーバスを敷設しました。このような経緯で当地域に住宅地が広がり、今の私たちのまちの原型ができました。

当地区は阪神間モダニズム発祥のエリアにあり、自然環境との調和を重視した、国内でも稀有な豊かな景観の住宅地として発展してきました。

この地域の特徴的な景観は、上述のような歴史によって培われてきたものですが、時代とともに住民の世代交代が進み、景観も新たな要素が加味されて少しずつ変化しています。この地域に長く暮らしていても知らない歴史やスポットが数多くあります。自分たちの住まう地域にあるこれらの歴史やスポットなどを「地域の宝」として再発見し、愛着を深める活動として歴史講演会を行いました。この度、その貴重な講演会の内容を将来の宝として遺すために記念誌を発行することとしました。

「面白そう」「楽しそう」なイベントとして、今まで地域のことあまり関心がなかった方々に知って頂くとともに、自分たちで創り上げてきたコミュニティの活動を、この地域の住民だけでなく、宝塚市内外の皆さんに伝えることで、さらに地域の魅力に愛着と誇りをもって頂くことを期待します。

宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会  
イベント実行委員会



# 目次

はじめに	1
刊行に寄せて	3

## 雲雀丘・花屋敷近辺の住宅開発について



長尾山が切り開かれるまで	5
住宅開発の促進	6
雲雀丘阿部荘園	7
花屋敷住宅地・新花屋敷地区の開発	9
山林精常園	10
雲雀丘・花屋敷地域の国登録有形文化財	11

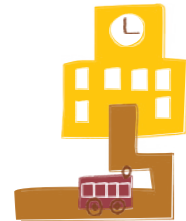
## 満願寺と栄根寺廃寺

栄根寺廃寺	13
満願寺	17
江戸時代の満願寺	19
中世の満願寺	20
満願寺二つの創建伝説	21



## 日本初の無軌道電車が走ったまち

トロリーバス	23
新花屋敷温泉	25
日本無軌道電車創業までの道のり	27
車両の設計・製造	28
運行計画と架線・路盤工事	29
車両のデザイン	30
日本無軌道電車の開業	31
田中数之助の夢	33



花屋敷つつじが丘バス通りの今昔	35
長尾台本社前の今昔	36
講演者のご紹介	37
編集後記	38

# 刊行に寄せて



令和4年3月吉日  
宝塚市長 山崎 晴恵

宝塚市は、景観計画において、「自然や歴史・文化を『守る』、市民主体のまちづくり活動などを『育てる』、周囲のまちなみや自然景観と調和した都市景観を『つくる』ことが重要であり、これらの取り組みを通じて『宝塚らしさを感じる』都市景観を形成します。」としています。

景観を守るには、そこに住む人、生活する人が守りたいと思うことが重要です。本冊子では、コミュニティひばりの現在の景観を織りなす歴史を取り上げていただいています。地域の歴史を知り、魅力の発掘をすることで、地域への愛着を深め、また、その魅力を市内外に発信することで景観を守る活動に繋がっていくことと思います。

本冊子とこれから繋がる地域の活動が今後の宝塚市を創る大切な1歩となることを期待しております。

# 雲雀丘・花屋敷近辺の住宅開発について

この地域は明治から大正昭和にかけて日本でも有数の住宅開発地として有名で、宝塚における近代住宅の走りになる住宅開発が行われた場所になります。

直宮 憲一 郷土史研究者

## 阪鶴鉄道の開通

アヘン戦争以降、ヨーロッパ各国、ロシア、アメリカを含め列強が中国に対し進出を行っていましたが、日本にその戦禍が及んではいけないという懸念がありました。舞鶴には軍港があり物資の搬入を考え、軍港と都市をつなぐ鉄道が必要になっていました。明治32年になり阪鶴鉄道として

大阪・福知山間が開通しました。阪鶴鉄道はその名称の通り大阪から舞鶴までの鉄道です。当初、京都鉄道が先に京都から舞鶴まで開通させる計画をしていたので、まず大阪から福知山までの間を開通させました。その後、京都鉄道の延伸計画は諸事情がありうまく進まなかった為に、福知山から舞鶴までの延伸を再度申請し明治37年に大阪・舞鶴間全線が開通しました。

## 長尾山訴訟

明治32年に阪鶴鉄道の敷設地の買収にあたり、入会権を持つ村々の共有地の山林の売買代金をめぐり、原告・切畑村が被告・周辺の長尾山、川西村など5ヶ村（のち4ヶ村に変更）に対し訴訟を起こしました（長尾山訴訟）。原告側が売買代金の配分を多くするよう主張し、被告側はこれを認めず、原告は奥山の所有権をめぐり、「土地所有権回復登記名義書換訴訟」をおこしました。この時の訴訟代理人は弁護士・鳩山和夫氏ら3名でした。大勢は超一流の弁護士が訴訟代理人となり勝訴のムードがありました。ところが明治36年4月29日一審判決で、「山林所有者は明治22年に成立した村でなく、江戸時代から入会権があり長尾山奥山は原告の独占林ではなく、原告の主張は成立しない。」と棄却されました。明治36年6月4日原告はこれを不服として大阪控訴院に上訴しましたが明治37年6月8日これを棄却されました。さらに控訴はしましたが同年12月棄却されました。



鳩山和夫氏  
鳩山和夫氏は日本で最初に弁護士資格を取得している。後の政治家・鳩山一族の祖父にあたる。

176号線と並行して走る阪鶴鉄道の蒸気機関車



京都鉄道、阪鶴鉄道路線図



この地域は長尾山山系が東西に広がっています。明治26年（1893年）大阪・神崎・池田・三田・福知山・舞鶴間の鉄道敷設計画の申請が行われました。現在のJR福知山線の前身となる鉄道ですが当時は私鉄としての申請でした。

## 長尾山南麓の鉄道敷設

## 長尾山が切り開かれるまで

## 住宅開発の促進

長尾山訴訟の決着によりこの地域の開発が促進されることになりました。明治40年前後長尾山東部の満願寺にいたる道の中ほどに、東塚一吉氏が古霊泉（炭酸泉）を開削し、花屋敷温泉とし旅館を開業します。

## 箕面有馬電気軌道の敷設

明治43年箕面有馬電気軌道（現阪急宝塚線）が敷設され、花屋敷駅が設置されました。同年、小林一三氏が池田室町で分譲住宅の販売を開始しました。当時小林氏は東京の三井銀行に勤めていましたがヘッドハンティングでこの地に来られました。北浜銀行の関係もあり監査役として就任されました。



雲雀丘花屋敷駅付近を走る箕面有馬電気軌道（昭和10年）左に堀文平郎が写る（橋本雅夫氏提供・久保田正一氏撮影）

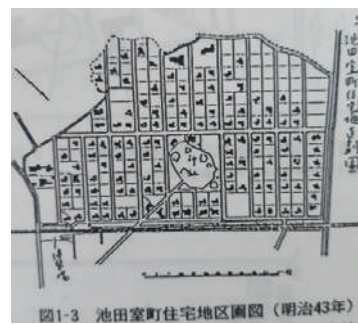
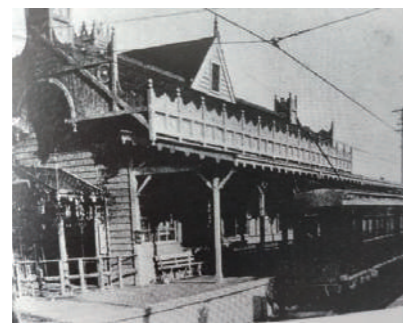


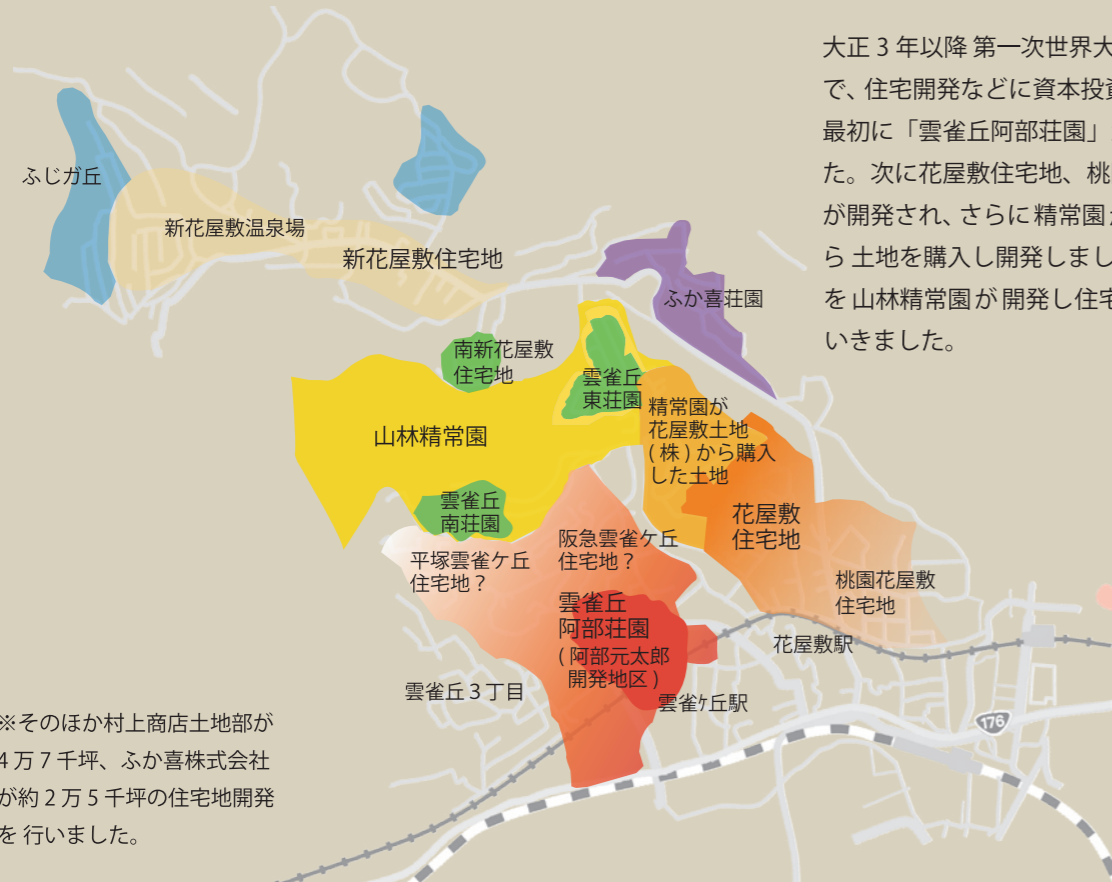
図1-3 池田室町住宅地区図面（明治43年）池田室町の当時の分譲地の図面



宝塚駅

## 雲雀丘花屋敷地域の開発

大正3年以降第一次世界大戦後の好景気で、住宅開発などに資本投資が加速します。最初に「雲雀丘阿部荘園」が開発されました。次に花屋敷住宅地、桃園花屋敷住宅地が開発され、さらに精常園が花屋敷土地から土地を購入し開発しました。さらに北側を山林精常園が開発し住宅地が広がっていきました。



※そのほか村上商店土地部が4万7千坪、ふか喜株式会社が約2万5千坪の住宅地開発を行いました。

